定線海況調査

鎌田信一郎・天真正勝・守岡佐保・勝瀬富雄・須原 修・ 三好亮徳・藤岡保史・渋江 文・三浦 勇

徳島県沿岸及び沖合の海況変動を把握し,重要な魚介類 の資源変動及び漁場形成機構を明らかにするため,定線海 況調査を実施した。

調査方法

1.調查期間

沿岸定線調査は,平成21年4月から平成22年3月にかけて 毎月実施した(表1)。 海部沖合海区については,平成21 年5,8及び11月に実施した。

2.調査定線

播磨灘海区の5定点, 紀伊水道海区の21定点, 海部沿岸海区の18定点及び海部沖合定点の5定点の合計49定点で調査を実施した。

3.調查船

漁業調査船「とくしま」(鋼製80トン,1,200馬力)を 用いた。

4.調査内容

観測ごとに一般気象,海象,水温,塩分,クロロフィル(蛍光強度),溶存酸素濃度,水色,透明度,流況及び魚群量を調査した。調査に使用した機器及び調査方法については,表2に示した。

表 1. 各海区ごとの調査実施日

月/海区	播磨灘	紀伊水道	海部沿岸	海部沖合
4月	9	6,713	13,15,16	欠測
5月	1	11,14,15	15,18,19	25
6月	9	2,4,8	8,12,15	欠測
7月	2	6,7,13	7,14,28	欠測
8月	8	17,19,20	20,21,24	25
9月	9	4,14,15	14,24,25	欠測
10月	19	1,5,13	13,14,15	欠測
11月	4	9,19,20	20,24,25	27
12月	2	7,9,10	10,15,21	欠測
1月	欠測	欠測	欠測	欠測
2月	8	15,17,22	22,23,24	欠測
3月	8	11,12,17	17,19,23	欠測

5. 資料の保存方法

観測資料は、観測日及び定点毎に1m間隔でマイクロソフト社製の「Excel」(CSVファイル形式)及びNDSシステック社製の徳島県海洋データ処理システムに保存された。

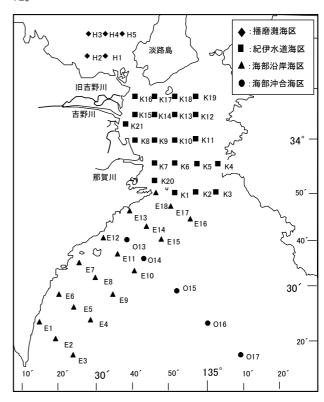


図1. 調査定点の位置

表2. 調査に使用した機器及び調査方法

調査項目	調査機器及び方法						
水温·塩分	FSI社製 ICTD						
クロロフィル(蛍光強度)	SEAPOINT社製 Chlorophill Fluorometer						
溶存酸素濃度	FSI社製 Beckman Oxygen Sensor						
pН	FSI社製 pH Sensor 1200 dBar Operational						
濁度	Marine System Technology社製 XMS-500						
水色	フォーレル・ウーレ水色標準液						
透明度	セッキー板						
流況	RD Instrument社製 VM-150KHz						
魚群量	(株)ソニックKFC-3000						

調査結果

各海区ごとに水深10m層の平均水温及び平均塩分の観測 結果及び偏差の目安を示した(表3及び表4)。

なお,観測値の偏差の目安として平年差を標準偏差で除した値を用い,観測値を表5の偏差表現及び偏差階級表現で表した。

播磨灘海区における水温は、10月に「低め」となったものの年間を通じて概ね「平年並み」~「やや高め」で推移した。月別水温は、4月「高め」、5月「平年並み」、6月「やや高め」、7月「平年並み」、8月「やや高め」、9月「平年並み」、10月「やや低め」、11月「やや高め」、12月「高め」、2月「やや低め」、3月「やや高め」だった。塩分は、4月「平年並み」、5月「やや高め」、6~7月「高め」、8月「やや高め」、9月「平年並み」、10月「やや高め」、11~12月「平年並み」、2月「やや高め」、3月が「平年並み」だった。

紀伊水道海区における水温は,年間を通じて概ね「平年並み」~「やや高め」傾向で推移した。月別水温は,4~6月「平年並み」,7月「やや高め」,8月「高め」,9月「平年並み」,10月「やや高め」,11月「平年並み」,12月「やや高め」,2月「平年並み」,3月「高め」だっ

た。塩分は、4~5月「平年並み」、6月「高め」、7月「や や高め」、8~2月「平年並み」、3月「やや高め」だった。

海部沿岸海区における水温は,11月に「低め」となったものの,年間を通じて「平年並み」~「高め」傾向で推移した。月別水温は,4月「高め」,5月「平年並み」,6月「やや高め」,7月「平年並み」,8月「高め」,9~10月「平年並み」,11月「低め」,12月「平年並み」,2月「やや高め」,3月「かなり高め」だった。塩分は,4~5月「平年並み」,6月「高め」,7~8月「平年並み」,9月「やや高め」,10月「平年並み」,11月「やや低め」,12~3月「平年並み」だった。

海部沖合海区における水温は, 5,8及び11月が「やや高め」だった。塩分は, 5月「やや高め」, 8及び11月「平年並み」だった。

表3. 水深10m層における平均水温の観測結果

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	11.54	14.01	18.51	21.54	25.56	26.14	23.36	21.38	18.12		8.61	9.52	
	++	-+	+	+-	+	-+		+	++			+	
紀伊水道	水温	12.82	16.66	19.20	22.63	26.37	26.23	25.02	21.02	18.49	='	11.29	13.54
^{和17 小坦} 偏差の目安	-+	+-	+-	+	++	+-	+	-+	+	定期	_+	++	
海部沿岸	业 水 温	18.31	19.63	22.07	23.82	27.87	26.88	24.82	21.37	20.34	検査	16.95	17.74
/# U) / U / T	偏差の目安	++	+-	+	+-	++	+-	+-		+	_	+	+++
海部沖合	、 水 温	欠測	21.38	欠測	欠測	27.87	欠測	欠測	22.99	欠測	='	欠測	欠測
	『偏差の目安	人则	+	人则	人则	+	人则	人则	+	人则		人则	人则

表4. 水深10m層における平均塩分の観測結果

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
播磨灘	塩 分	32.75	32.76	32.81	32.52	32.09	31.93	32.22	32.33	32.38		33.00	32.70
田石栎	偏差の目安	+-	+	++	++	+	+-	+	+-	+-		+	+-
紀伊水道	塩 分	33.15	33.33	33.55	33.11	32.72	32.83	32.96	33.06	33.28	='	33.26	33.63
ルロアハル	『偏差の目安	-+	+-	++	+	+-	+-	+-	-+	-+	定期	_+	+
海部沿岸	_ 塩分	34.32	34.23	34.30	33.62	33.32	33.80	33.58	33.81	34.23	検査	34.52	34.50
/# U) /U /T	「偏差の目安	-+	+	++	+	-+	+	+-	_	-+	_	-+	+-
海部沖台	、 塩 分	欠測	34.52	欠測	欠測	33.53	欠測	欠測	34.33	欠測	=	欠測	欠測
ᄺᅃᄺ	『偏差の目安	人例	+	人例	人例	-+	人例	人別	+-	人例		入州	人州

表5. 偏差の大きさと表現

偏差表現	平年偏差/標準偏差	階級表現		
かなり高め, かなり低め	+2.0以上, -2.0以下	+++,		
高め、低め	±1.3~2.0	++,		
やや高め, やや低め	±0.6~1.3	+, -		
(高め・低め基調の)平年並み	±0~0.6	+-, -+		